

## 名古屋第二赤十字病院で診療を受けられる患者さんへ

### ～臨床研究に関する情報公開について～

当院では、下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報等の診療情報を研究目的に利用されることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。また、研究の詳細についてお知りになりたい場合も、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。なお、研究の詳細については、他の研究対象者等の第三者の個人情報や知的財産の保護に支障がない範囲内での開示となります。

研究課題名	肺動静脈奇形における神経学的合併症の発生因子の検討		
研究実施予定期間	院長が研究実施を許可した日 ～ (西暦) 2023 年 3 月		
研究実施診療科	放射線科		
研究の倫理審査等	治験・臨床研究審査委員会審査日	(西暦) 2021 年 1 月 8 日	
	院長が研究実施を許可した日	(西暦) 2021 年 1 月 12 日	
対象となる方	対象期間内に、肺静脈奇形にて CT 検査を受けた方		
対象期間	(西暦) 2004 年 1 月 ～ (西暦) 2020 年 10 月		
主たる研究実施機関	名古屋市立大学大学院医学研究科 放射線科 (研究代表者氏名：下平 政史)		
共同研究機関	別紙【研究組織】参照		
当院の研究責任者	所属	放射線科	氏名 祖父江 亮嗣
研究の意義	肺動静脈奇形は、脳梗塞や脳膿瘍などの合併症を生じる重要な疾患です。現在、肺動静脈奇形に流入する血管が3mm 以上の場合は、これらの合併症を生じるリスクが高く、治療適応と考えられていますが、最近、3mm 未満の病変でも合併症を生じたという報告があり、肺動静脈奇形に対する治療適応の判断基準は定まっていません。このため、新たな基準の確立が望まれています。		
研究の目的	肺動静脈奇形における脳梗塞や脳膿瘍などの合併症の発生する要因を検討し、肺動静脈奇形に対する治療適応の判断基準を確立することが、本研究の目的です。		
研究の方法	カルテから年齢、性別、既往歴、現病的を抽出し、それらのデータと画像を後方視的に評価し、以下を検討します。 1) 神経学的合併症の発生因子： 肺動静脈奇形のサイズ、形状、部位、併存疾患などと神経学的合併症の関連を検討します。 2) 神経学的合併症の発生頻度： 単発の肺動静脈奇形における脳梗塞や脳膿瘍の発生頻度を明らかにします。		
研究に使用するもの	診療録から得られる情報を、匿名化した上で使用します。(使用する情		

	報は、上記「研究の方法」を参照)
診療情報等の他機関への提供方法	必要なデータを氏名や住所等といった個人を直ちに特定できるような情報とは切り離され、主たる研究実施機関に提供します。
結果の公表	関連学会や学術論文等で発表予定です。対象者の氏名等の、直ちに個人を特定できる情報を公表することはありません。
個人情報の保護	対象者の方の情報の使用に際しては、氏名や住所等といった個人を直ちに特定できるような情報とは切り離し、対象者個人とは無関係の番号を付けた上で、研究責任者の責任の下、廃棄するまで厳重に保管・管理します。
研究の資金源	本研究は特に資金を必要とせず、外部からの資金提供もありません。
利益相反	本研究の実施にあたり、研究の透明性や公正性を損なうような利益相反はありません。
情報等の二次利用	本研究で得られた情報は、本研究の目的以外には使用しません。
問い合わせ先	名古屋第二赤十字病院 放射線科 祖父江 亮嗣 電話 052-832-1121 (代表)

## 《別紙》

## 【研究組織】

## 1. 研究代表者

名古屋市立大学大学院医学研究科 放射線科 下平政史

## 2. 共同研究者

所 属	氏 名
名古屋市立大学大学院医学研究科 放射線科	太田 賢吾
名古屋市立大学大学院医学研究科 放射線科	澤田裕介

## 3. 研究実施施設

一宮市立市民病院	西川浩子
岡崎市民病院	渡辺賢一
刈谷豊田総合病院	北瀬正則
江南厚生病院	坂東勇弥
社会保険中京病院	伊藤俊裕
春日井市民病院	深谷信行
成田記念病院	石井美砂子
西知多総合病院	上岡久人
津島市民病院	大宮裕子
豊川市民病院	小林 晋
名古屋共立病院	橋爪卓也
名古屋市立西部医療センター	佐々木繁
名古屋市立東部医療センター	武藤昌裕
名古屋第二赤十字病院	祖父江亮嗣